

「CAC 第 7 回 SWIFTeS 研究会」 開催レポート

株式会社 C A C エクシケア

「SWIFTeS(スウィフト)」は、新薬開発における電子申請(eCTD)を支援すべく、申請文書作成のために整備されたテンプレートを擁し、Microsoft Word にアドオンするだけで機能拡張を行うことができるマクロツールです。

現在、SWIFTeS は 19 社の製薬メーカー様に導入いただいております。弊社では、SWIFTeS ユーザー様に向けて、年一回の合宿研究会を開催しています。今年は、2009 年 11 月 13 日(金)から 14 日(土)に、大塚製薬株式会社様の保養施設である大塚潮騒荘を会場にお借りして、「CAC 第 7 回 SWIFTeS 研究会」を開催しました。

本研究会の目的は、ユーザー様から実践的な利用状況、および懸案や課題を披露いただき、当社からは業界動向や製品開発に関する最新情報を開示しながら、ユーザー様と SWIFTeS 相互の親和的発展を目指してディスカッションを行うこと。そして、ユーザー様同士のコミュニケーションと親睦を図っていただき、以降の潤滑剤としていただくことにあります。

その目的は、回を重ねるごとに達せられつつあり、毎年の参加を楽しみにされているファンユーザー様も多数おられ、今回は 12 社 28 名の方々より参加申し込みをいただきました。

ご期待に応えるべく、アジェンダとプログラムを次のとおりとして開催いたしました。

テーマ 1	「SWIFTeS を取り巻く環境の変化と今後の開発ロードマップについて」
テーマ 2	「申請文書管理業務の課題解決に向けたディスカッション」 パネラー： 弊社中田雅之，大橋規之
テーマ 3	「eCTD 申請、ER/ES 対応に関するトピックスのご紹介、および質疑応答」 パネラー： 弊社 松井 一，片山奈津
テーマ 4	「新薬申請における QC ツールのご紹介」 講師： 有限会社シェアースイト 代表取締役 尾関正俊 氏



研究会では活況な議論が展開され、その内容は、現行 SWIFTeS の機能改善/拡張、将来の医薬品申請業務の変遷を見据えた SWIFTeS 未来像の模索にまで及び、参加ユーザーの皆様より、「自分たちで SWIFTeS を育成、発展させていくのだ」という強い熱意が感じられました。

また、夕食では潮騒荘の美味しい料理に舌鼓を打ちながら、和やかな雰囲気懇親会となりました。歓談の中でも、ときおり名刺を受け渡しされる姿が見受けられ、日頃の医薬品申請業務に関するノウハウ交換をされている様子でした。

翌日は、ゲスト講師を招いたミニセッションの後、潮騒荘に隣接している「大塚国際美術館」にて、世界の名画を鑑賞しました。美術館を巡っている際にユーザー様より、「この研究会は、我らには日常業務に即した勉強になり、CAC は製品に関する情報収集の機会となる。また、素晴らしい環境（会場）で、お互いが膝詰めでコミュニケーションできた。参加者全員にとって、まさに Win Win。善いこと尽くしのセミナーであった。」という、嬉しいお言葉をいただきました。ベンダーとユーザーが協働してマーケティングを行い、ベンダーはニーズとコストのバランスが取れた製品を開発/提供し、ユーザーには納得と自負を持って導入いただく。これは、本研究会

のような密着深耕型セミナーが、まさに目指しているところです。

今後は、研究会で得られた情報を検討/精査しながら、SWIFTeS 開発の要件に盛り込み、ユーザー様に喜んで購入いただき、末永く利用いただけるツールとして発展させていく所存です。

【SWIFTeS 研究会の様子】



【大塚国際美術館での名画鑑賞】

